

開催報告

そして新たな一歩を

～男女がともに生き生きと暮らせるまちをめざして～

平成27年は、丸亀市合併10周年、そして男女共同参画都市宣言から10周年という節目の年でした。10月～12月にかけてコミュニティでのセミナー、フォト展示などの記念事業を実施しました。実施にあたり、ゆめネットワークの方、企業の方や子育て中の女性などさまざまな分野の10名の方に実行委員として計画の段階から当日の運営に至るまで関わっていただきました。またそれぞれの活動母体を生かし、事業の周知や実施にご協力いただきました。

今回は、記念事業の中から特に記念講演会について報告するとともに、全体を通して、感じたもの、見えてきたこれから取り組むべき課題を、実行委員のみなさんとともに振り返ってみました。

丸亀市男女共同参画都市宣言文

すべての人は 男女の枠を超え その人らしく
自立して生きるために 自らの意思で あらゆる
分野に参画する機会を持ち 等しく責任を負います

市民一人ひとりの主体的で多様な生き方を尊重し
男女がともに生き生きと暮らせるまちをめざして

ここに丸亀市は「男女共同参画都市」
を宣言します

平成17年12月1日



宣言文朗読の様子



開催報告

平成27年12月20日(日)丸亀市生涯学習センターにて記念講演会を開催し、約350名の方にご来場いただきました。村木厚子さん(前厚生労働事務次官)による基調講演のほか、丸亀で活躍するみなさんによるパネルディスカッション「10年後の丸亀市を描く」、男女共同参画都市宣言文の朗読などを行いました。

パネルディスカッションの様子

記念事業に関わって

記念事業を通して、感じたこと、またこれからの男女共同参画社会づくりに向け取り組むべき課題を実行委員のみなさんに伺いました。

記念事業に取り組む中で感じたこと



実行委員会の様子

- 実行委員会に参加するまでは、「男女共同参画」という言葉すら知らなかった。やはり何事においても参加してみないと違った世界は見えてこない。
- 市内には様々な活動をしている方がいることを知った。立場が違っていると考えることも違う、とらえ方、視点なども違うということが大変勉強になった。みんなが力を合わせて記念事業をやったというのも一体感や仲間意識が芽生えてよかった。

村木厚子さん 基調講演より「男女共同参画で未来を変える 活力ある共生社会へ」

“変えられない未来”と“変えられる未来”

日本は、深刻な少子高齢化になっている。今は約3人の現役世代(20歳～65歳の人)で1人の高齢者(65歳以上)を支えている。例えば15年後の2030年には2人で1人。45年後の2060年には1人で1人を支える時代になる。(以下のグラフ参照)

2030年の現役世代はもう生まれているので、いまさら増やせない“変えられない未来”である。でも2060年の現役世代は、実はまだ生まれていない人がほとんどなので、これから日本がどう変わるかで、その数は変わってくる。そうすると我々は“変えられる未来”のところは努力をしなければならない。



村木厚子さん

潜在パワーの開発

実は現役世代の中にもっと能力を発揮できる大きな潜在パワーが二つある。一つは、日本社会では女性は男性と同様に力を発揮できているわけではない。隠れている女性のパワーには期待できる。

もう一つは、高齢者パワーである。今は平均寿命、健康寿命ともに伸びてきているので、これからもっと高齢者にも期待できる。

今後の我が国の人口構造の急速な変化
～日本の将来推計人口(平成24年1月推計)～

○ 我が国の合計特殊出生率は、平成17年(2005年)に1.26と過去最低を更新。人口減少が始まった。
○ 平成24年1月人口推計(中位)によれば、2060年に産まれる子ども数は現在の約5割、高齢化率は現在の約2倍(39.9%)、生産年齢人口(15～64歳)も現在の2分の1近くに急激に減少する。



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」(出生中位、死亡中位の場合)

“変えられる未来”に向けて

- 「男女共同参画」とはどのようなものか、今回コミュニティで実施した事業でお年寄りにもイメージできたと思う。何の企画にも男女共同参画の推進事業は取り入れられると感じた。コミュニティとも連携して活動を進めていかなければならない。
- 10周年という「記念すべき年」ということを多くの方が自覚されたと思う。地域の自治会活動や企業の協力を得て地域のすみずみに落とし込んで、市民全体の運動に持っていかれたらいいと感じた。
- 労働力不足の時代を迎えていかに女性に活躍してもらおうかが重要になってくる。働きやすい環境作

りの実感としてはまだないため、地道な活動を続けていくのみ。

- 共働き世帯を家族、地域、企業が一体となって応援できる地域であってほしい。そのための啓蒙活動、知識習得が必要。実践、浸透効果のあるものを。
- 記念事業の参加者に若年層、男性が少なかった。これからは若い勤労者の方や男性の関心を寄せる取り組みが大切だと思う。
- 子どもの教育。学校で教わったことを幼い頃から家庭や地域で実践できれば社会全体が変わるのでは。

記念事業を終えて

今回さまざまな分野の実行委員の方に関わっていただき、それぞれの人脈やネットワーク、専門分野を生かした事業が実現できました。

これからのまちづくりには潜在パワーの開発と“変えられる未来”を切り開いていくことが不可欠です。そのためには今回の記念事業のようにたくさんの方に関わっていただき、いろいろなパワーを発揮していただくことが必要だと感じました。今回はその大きなきっかけとなる記念事業となりました。

